



図書館だより

10月号 (NO.5)

発行：中野区立中野中学校図書館

秋らしく過ごしやすい季節になりましたね。館内は相変わらず、閲覧禁止となっておりますが、昼休みの時間に貸出を行っていますので、多くの生徒が本を借りに来てくれます。最近では調べ物の資料を借りにくる生徒も見受けられます。1冊の本を読むと、その本をきっかけに次の本につながる場合があります。例えばその本に出てきた地名をもとに地図で場所を確認したり、その場所の情景を知って色々と調べたり、文中で紹介されていた本を読んでみたり、1冊の本から色々な興味がわいてきます。皆さんも、まずは自分の好きなことを中心に本を読んでみては・・・。スポーツに関することでもよいし、自分の趣味に関することでもよいし、色々な方面に派生していきますよ。

『差別と人権』 差別される子どもたち
続・世界の子どもたちは今

アムネスティ・インターナショナル日本/編著
絵本塾出版



スロバキアに住んでいる12歳のヤクブはロマ族というだけで最低限の教育しか受けられず、先生になる夢をたたれてしまう。ロマとは旅芸人などで生活費を稼いで定住しない人たち。フラメンコもロマの人たちによって広まる。

(今月中野中人権週間にちなんで館内にコーナー設置)



お願い
図書館から督促状(返却期限が過ぎても本を返さない人)をもらっても心当たりのない人は、早めに図書館のほうに言いに来てください。データ上、未返却になってしまいます。



*** 今月のおすすめ本 ***



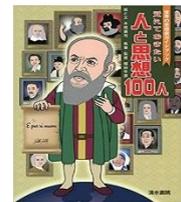
『無限の中心で』
まはら三桃/著
講談社



通称ゴン高とよばれているところの普通科文系コースに通っているとわは、友人の美織に頼まれて新聞部の助っ人を引き受けることになる。その取材先は理系コースで数学オリンピックに挑戦する数学研究部。個性豊かな3人の部員たちは、難解問題をすらすらと解くはずば抜けた数学センスの持ち主。顧問の先生ははじめ部員たちが集まっても解けない超難解問題を毎週木曜日になると必ず、誰かが解答プリントを部室に置いていく。いったい誰が・・・。「木曜日のミステリー」に迫る。

(『数学の自由研究』も一読してみてね。)

『覚えておきたい人と思想 100人』
本間康司/絵と文
越田年彦/執筆・監修
清水書院



古今東西、名高い思想家100人が乗っています。皆さんなじみがある聖徳太子やソクラテス、夏目漱石や、宮沢賢治などがどんな思想を抱いていたのかイラスト付きの一文で端的に書かれています。また、その人物を知るうえで親しみやすいエピソードも載せられています。ちなみに夏目漱石は抜いた鼻毛を原稿用紙に貼り付けて並べる癖があったそうです。思想家の心にとまる一文をみつけてみては・・・。